

茶 業 研 究 所

I 基本方針

本県の茶業は、比較的平坦で、経営体ごとの生産規模が大きい球磨、菊池地域や、傾斜地で経営体ごとの規模が小さい上益城、鹿本、八代、芦北地域など、県全域に様々な歴史や特色をもった茶産地が分布しており、中山間地域における重要な作目となっている。茶種としては、蒸し製玉緑茶、煎茶、釜炒り茶が主に生産されており、特に蒸し製玉緑茶は全国生産量の2割以上を占め、県内を中心に、全国の主要茶種である煎茶よりも高値で流通している。また、県産茶の栽培面積及び生産量は長期的な減少傾向にあるが、現在も全国有数の茶生産県として重要な位置を占めている。

県内茶栽培における主力品種は、近年、「さえみどり」など新たな品種への改植が進んでいるものの、依然として「やぶきた」が茶園面積の約7割を占めている。また、樹齢30年を経過した茶園が約4割を占めるなど、「やぶきた」偏重による作業の集中化、茶樹の高樹齢化による生産性の低下などが問題となっている。

このような背景の中、令和6年1月に本県初のオリジナル茶品種「熊本TCO1」が品種登録された。「熊本TCO1」は「やぶきた」よりも収量や荒茶品質が優れることから、今後関係機関と連携して早期の普及に取り組む必要がある。

一方、需要低迷と流通状況の変化などにより、茶価は平成11年をピークに長期的な低迷状態にある。また、生産資材の急激な価格上昇は、生産者の経営を強く圧迫しており、生産者の減少や後継者不足による担い手の高齢化が進行している。

こうした状況の中、本県茶業を維持していくためには、高品質化によるくまもと茶のブランド力強化や、多様化する消費需要への対応、中山間地域での経営安定化に向けた技術開発が求められている。

II 重要研究事項

1 県産茶の競争力向上に向けた新品種育成と生産技術の開発

本県初のオリジナル品種「熊本TCO1」について、遺伝子診断技術の確立、枝条管理技術及び育苗技術の確立、荒茶加工技術の開発等について取り組み、新品種を活用した県産茶の競争力向上を図る。

また、多様化する消費者の嗜好に対応した新たな商品による稼げる茶業の推進を図るため、近年、国内外で需要が高まっている抹茶や機能性を高めたお茶、香りに特徴があるお茶など、付加価値を高めた新たな茶種の生産技術を開発する。

2 収益性改善に向けた茶の低コスト・生産性向上技術の開発

茶の生産に不可欠な肥料、燃油等の資材費はさらに高騰しており、また加工施設の維持費等のコストも高い水準で推移しているため、茶の価格低迷とともに茶生産者の経営を強く圧迫している。また、設備資材の老朽化が進行しており、収益性改善に向けた取り組みは喫緊の課題となっている。

このため、栽培・加工の両面において、収益性や生産効率を改善できる低コスト・生産性向上に資する技術の開発が必要であり、特に近年の急激な肥料価格の高騰に対応した新たな茶園施肥体系の確立を図る。

3 持続可能な中山間茶業の実現に向けた技術の開発

中山間地において、茶は重要な経済作物となっているが、作業効率が低く、また茶加工施設の老朽化等により、茶業経営の継続が困難な経営体は増加傾向にある。このため、後継者不足や担い手の高齢化が進行しており、持続可能な中山間茶業を実現できる革新的な技術の開発が必要となっている。

このため、新たな茶種であるCTC緑茶の生産による生産コスト削減技術の開発や、スマート農業技術を活用した効率的な茶園管理技術の開発を行う。

Ⅲ 試験研究課題一覧

【茶業研究所】

部門	大課題	中課題	予算		小課題	試験期間
			金額	区分		
茶業	1. くまもとの魅力を発信できる新品種の開発・選定	(1) 熊本県オリジナル茶品種「熊本ＴＣＯ１」のブランド確立に向けた品種識別法及び栽培・加工技術の確立	1,018	県単	①□「熊本ＴＣＯ１」の生葉及び荒茶を用いた品種識別法の確立 ② 「熊本ＴＣＯ１」の普及拡大に向けた茶園の整剪枝技術及び優良な秋挿し苗栽培技術の確立 ③ 「熊本ＴＣＯ１」の蒸し製玉緑茶の高品質化及びその他主要茶種への製造適性評価	R5～R7 R5～R7 R5～R7
		(2) 茶の系統適応性検定	205	外部資金	① 茶系統適応性検定試験	H29～継続
	2. 稼げる農業を目指した革新的な生産技術の開発	(1) 茶の病害虫予察	農 業 技術課	令達	① 病害虫発生予察調査	S40～継続
		(2) 新規及び既存製茶ラインを活用した高収益茶生産技術の開発	2,980	県単	① 簡易消費形態に適する高品質・低コスト緑茶生産技術の確立 ② 香り・機能性成分に着目した新たな茶生産技術の確立	R4～R6 R4～R6
	3. 環境にやさしい農業を推進する技術の開発	(1) 茶における肥料使用量低減に向けた新たな施肥体系の確立	679	県単	①□減肥下における液肥施用効果の検証 ② 化学肥料使用割合を低減した新たな施肥体系の確立	R5～R7 R5～R7

注) **新規**：本年度から新たに取り組む課題

延長：課題設定時の完了予定年度を延長して設定する課題

組替：課題設定時の内容を組み替えて設定する課題

短縮：課題設定時の完了予定年度を短縮して設定する課題